

【ポスター発表】

スクールソーシャルワーク実践における連携の構造に関する考察

- 不登校生徒への支援過程の検証から -

久留米大学 大西 良 (会員番号 6793)

藤島法仁 (久留米大学・6873) 米川和雄 (帝京平成大学・6795) 荒川裕美子 (久留米大学・6706)

大原朋子 (久留米大学・8126) 占部尊士 (長崎ウエスレヤン大学・7130) 末永和也 (久留米大学・7773)

〔キーワード〕スクールソーシャルワーク、連携の構造、不登校

1. 研究目的

学齢期の子どもたちが直面する課題は、時代や社会の状況を反映し、様々な形態をとって顕在化してきた。近年では、不登校、引きこもり、児童虐待、校内暴力、学級崩壊などの多くの事象が社会問題化している。とりわけ、不登校については、文部科学省の『平成21年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査』によると、不登校児童生徒数は122,432名を数え、近年、若干の減少傾向にはあるものの未だに高い値を推移していることが示されている。また、同調査では、不登校児童生徒のうち登校できるようになった児童生徒数は30.3%にとどまっていることも報告されおり、不登校問題の根深さ、解決の困難さが窺える。

このような不登校児童生徒に対する取り組みとして、文部科学省は2008(平成20)年度から「スクールソーシャルワーカー活用事業」(以下、本事業とする)を実施している。なお、本事業は、2010(平成22)年度から「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」の中に位置づけられ、「スクールカウンセラー等活用事業」とともに国庫補助事業として実施されている。

本事業において、スクールソーシャルワーカーは児童生徒が学校生活を円滑に送れるように、また、教師や学校組織が充実した教育活動を展開できるように、子どもたちが置かれている様々な環境に対する働き掛けを行うとともに、学校の枠を超えて関係機関等との連携を図る人材として位置づけられている。

これまでのスクールソーシャルワーカーの連携に関する研究については、例えば、連携の在り方、連携の果たす役割や機能などに関する分析、検討がなされており、すでに一定の知見を得ている。しかしながら、不登校支援事例において、その支援過程に焦点をあてながら、スクールソーシャルワーカーの連携の構造について明らかにした研究は非常に乏しい状況である。

そこで本研究では、不登校支援過程におけるスクールソーシャルワーカーの連携について、エコマップを用いることによって、関係者および関係機関との相互関係性を視覚的に把握しながら、スクールソーシャルワーカーの連携の構造について明らかにすることを目的とした。

2. 研究の視点および方法

1) 分析対象

本研究では、報告者らが学校現場においてソーシャルワーカーとして実際の支援に携わった不登校男子生徒の一事例を分析対象とした。

2) 分析の視点と方法

本研究では、不登校支援事例におけるスクールソーシャルワーカーの連携について、その支援過程における関係性に焦点を当てることによって、スクールソーシャルワーカーの連携の構造を検証することが目的であるため、理論の生成や検証に有効とされる単一事例研究法 (single case study) を採用した。

また、支援過程における関係性については、エコロジカルアプローチの観点からエコマップを使用することで、本事例での人間関係や社会(資源)関係などの諸関係の空間的位置と時間的変化を視覚的に把握し、全体構造と関係性を分析した。

3. 倫理的配慮

事例の取り扱いについては、日本社会福祉学会が定める研究倫理指針に従って、最大限、個人情報の秘密保持ならびにプライバシー保護への配慮を行った。また、事例の詳細については、学校管理職を含め関係者との度重なる慎重な検討を経たうえで、プライバシー保護のために差し支えない範囲で一部改変した。

4. 研究結果

スクールソーシャルワーカーによる不登校生徒への支援過程において、エコマップを用いて子どもを取り巻く環境の実態と支援の実施によるその変化について検討した。

その結果、スクールソーシャルワーカーの連携として、学校の管理職、学級担任・副担任、養護教諭などとの連携、いわゆる「内の連携」、児童相談所、適応指導教室、医療機関、警察などとの連携、いわゆる「外の連携」、保育園・幼稚園、小学校、中学校、高等学校などとの連携、いわゆる「縦の連携」、同一自治体に所属するスクールソーシャルワーカー、スーパーバイザーなどとの連携、いわゆる「横の連携」の4つの連携が構造的に実践されていることが示された。また、支援過程におけるエコマップを時系列で検証したところ、これら4つの連携はミクロレベルからマクロレベルまでの支援空間の中で、重層的に展開されていることが明らかとなった。

以上のことを踏まえて、不登校支援事例におけるスクールソーシャルワーカーの連携の在り方、および連携をスムーズかつ有効なものにするための工夫について考察した。